

有限会社東軌建設 環境活動レポート

活動期間：2016年6月1日～2017年5月31日

作成日：2017年10月2日

お品書き

- 一、組織の概要
- 二、対象範囲
- 三、実施体制
- 四、環境方針
- 五、主な環境負荷の実績
- 六、環境目標及びその実績
- 七、環境活動計画及び取組結果とその評価、
次年度の取組内容
- 八、環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果
並びに違反、訴訟等の有無
- 九、代表者による全体評価と見直し



1. 組織の概要

(1) 名称及び代表者名

有限会社東軌建設
代表取締役社長 矢野 大輔

(2) 所在地

本 社 千葉県船橋市宮本8丁目30番15号
資機材置場 千葉県船橋市夏見台5丁目25番1

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 矢野 大輔
連絡担当者 鷺谷 香里、山口 高志
連絡先 電話 047-460-1590
FAX 047-460-1591
E-mail info@toki-kensetsu.com

(4) 事業内容

鉄道施設に関する土木工事、軌道計測・整備

(5) 事業の規模

売上高 3.7 億円 第14期(2016/6/1～2017/5/31)実績

	本社	資機材置場	合計
従業員数(人)	9	無人	9
延べ床面積(m ²)	86	347	433

(6) 事業年度

6月～5月

2. 認証・登録の対象組織・活動

認証・登録番号： 0010950

認証・登録年月日： 2015年12月22日

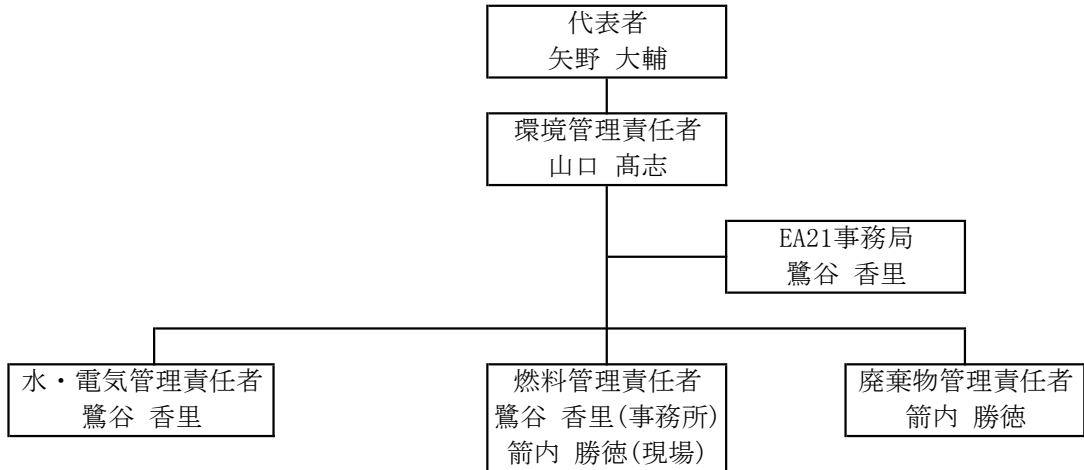
認証・登録事業者名： 有限会社東軌建設

対象事業所名： 本社・夏見資機材ヤード

所在地： 千葉県船橋市宮本8丁目30番15号
千葉県船橋市夏見台5丁目25番1

事業活動内容： 鉄道施設に関する土木工事、軌道計測・整備

3. 実施体制図



	責任及び権限
代表者(社長)	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の任命 環境経営システムの実施に必要な人材、資源の準備 環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 環境目標・環境活動計画書を承認 代表者による全体の評価と見直しを実施 環境活動レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理 環境関連法規等の取りまとめ表の作成と遵守評価の実施 環境目標・環境活動計画書を確認 環境活動レポートの作成
EA21事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐 環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 環境目標・環境活動計画書原案の作成 環境活動の実績集計 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 環境活動レポートの公開 各種手順書・記録作成の補佐
部門責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの方針、実施計画を自部門で実践 想定される事故及び緊急事態への対応 各種手順書・記録の作成
従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

4. 環境方針

(1) 地球温暖化の深刻化について

日々深刻化した温暖化問題に異常気象の中で、これまで以上に環境への関心を強めていかなければならない状況であり、より積極的に取り組むべきと考えます。弊社も今春より本社にてグリーンカーテン作成の為、ゴーヤと朝顔の育成を始めました。育成をしていく中で社員同士のコミュニケーションがよりとれるようになり、環境について業務の中でだけでなく日常生活で取り組むきっかけとなりました。少しでも温暖化防止になるアクションを提言し実現することで社会に貢献できるよう努力します。

(2) 有限会社東軌建設 環境方針

当社は創業以来、鉄道インフラ整備に関わる土木・軌道工事に携わってきました。鉄道はCO₂排出が、輸送量の占める割合に比べて低く、環境に優しい輸送機関です。私たちはCO₂排出量削減が重要であるとの認識のもと、エネルギーの効率利用や消費量低減に取り組むほか、社員一人ひとりがCO₂削減の観点から日々の業務を見直す取組に努めます。

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
2. ①エコドライブを実践し、化石燃料の使用量低減を推進します。
②事務所から排出されるゴミを分別し、再利用・再資源化に取り組めます。
③節水に取り組めます。
④クールビズ・ウォームビズ、節電を実行し、省エネ及びCO₂削減に努めます。
⑤コピー用紙の有効利用に加え、グリーン購入を推進します。
⑥現場では騒音、振動など近隣環境に配慮し、建設副産物の分別リサイクル化に取り組めます。

上記の行動指針について環境目標・活動計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めます。

環境方針は、すべての従業員に周知する。

制定日： 2015年3月17日
加筆(地球温暖化の深刻化について)： 2017年8月25日

代表取締役社長 矢野 大輔

5. 主な環境負荷の実績

第12期：2014年6月1日～2015年5月31日

第14期：2016年6月1日～2017年5月31日

項目	単位	基準年(第12期)	第14期
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	37,945	31,419
廃棄物排出量	トン	2.71	2.59
一般廃棄物排出量	トン	0.71	0.38
産業廃棄物排出量	トン	2	2.21
総排水量	m ³	206	50

※電力の二酸化炭素排出量換算値

0.525 kg-CO₂/kWh

6. 環境目標及びその実績

項目	期	基準年(第12期)	第14期		第15期	第16期
		(実績)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	6,632	6,500	3,850	6,433	6,367
	基準年比	2014年	98%	58%	97%	96%
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	30,215	29,610	27,100	29,308	29,006
	基準年比	-	98%	90%	97%	96%
都市ガスによる二酸化炭素削減	kg-CO ₂	662	636	59	629	622
	基準年比	-	96%	9%	95%	94%
灯油による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	436	427	411	423	419
	基準年比	-	98%	94%	97%	96%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	37,945	37,173	31,420	36,794	36,414
一般廃棄物の削減	Kg	707	693	379	686	679
	基準年比	-	98%	54%	97%	96%
製品への環境配慮	各々の現場における産業廃棄物管理計画に基づき分別し、建設副産物のリサイクル率の向上に努める。					
水道水の削減	m ³	206	202	50	200	198
	基準年比	-	98%	24%	97%	96%
グリーン購入の推進	%	26%	40%	47%	50%	55%

7. 環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

数値目標：○達成 ×未達成

活動：◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取組み計画	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
電力による二酸化炭素削減		
数値目標	○	前年度に続き、目標を大幅に上回る結果となった。2階仮眠室の利用頻度が低下したことが大きな要因。今年度末に育成を始めたグリーンカーテンは次年度に効果がでることを期待をしたい。前年度に引き続き、天井設置型のエアコン取替は電気工事に掛かる手間が甚大であるため当面は見合わせることにした。
・空調温度の適正化(冷房28℃ 暖房には使用しない)	○	
・不要照明の消灯	○	
・OA機器の省電力設定	○	
・クールビズの推進	○	
都市ガスによる二酸化炭素削減		
数値目標	○	2階仮眠室にある浴室の使用量が減ったのが目標達成の大きな要因。勤務体制の見直しによる仮眠所の利用頻度が低下したためと思われる。
・長期間の不在時は元栓を閉める	○	
自動車燃料による二酸化炭素削減		
数値目標	○	前年度との差はあまり出なかったが目標達成となる。エコカー車両の導入は、工事用車両として使用できるものが限られており、1台のみの導入となった。引き続きエコドライブの啓発活動(車両整備の徹底など)をしていく。不要車両を廃車し、現場に応じての配車の編成予定である。
・アイドリングストップ	○	
・効率的な配車(複数人で乗車)	△	
・定期点検の実施	×	
灯油による二酸化炭素削減		
数値目標	○	冬場のみ灯油を利用しましたが、前年度と比較すると、158%から94%まで二酸化炭素を低減。次年度も気温の変化に各自で対応できるようウォームビズの推進をしていく。
・ウォームビズの推進	○	
一般廃棄物の削減		
数値目標	○	グリーンサイトに関しては、元請から加入の要請はあったが、全下請会社まで普及しておらず、費用対効果や紙資源の節約といった点でも疑問符が付くので利用しないこととした。
・分別の徹底	△	
・コピー用紙のリサイクル化	△	
・両面・裏紙コピーの利用	△	
・グリーンサイトの利用	×	
建設副産物のリサイクル率の向上(各現場) 産業廃棄物の削減(自社)		
数値目標	○	元請会社との連絡・打合せを密にして工法、手順を十分に検討するように心掛ける。
・作業ミスによる廃棄量の削減	○	
・必要なものを必要な量だけ購入	○	
・ヤード、倉庫の整理整頓	△	
・資材を劣化させない措置	△	
水道水の削減		
数値目標	○	グリーンカーテン育成のため、水やりで使用水量の増加が考えられたが、前年度より目標値を大きく上回る結果となる。また前年度に引き続き勤務体制の見直しによる仮眠所の利用頻度が低下したためと思われる。引き続き全体会議を利用して節水意識の喚起に努めたい。
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	
グリーン購入の推進		
・事務用品グリーン購入比率向上	○	月によってグリーン購入のばらつきはあるが目標達成となる。前年を意識しての結果であると思われる。
・省エネ性能の高い電気製品の購入	△	
・有害性の少ない資材の購入	×	
社会貢献		
・会社周辺の清掃活動	△	もう少し定期的実施したい。

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（金属くず、廃プラ、廃ガラス、廃油等）
建設リサイクル法	建設副産物
騒音・振動規制法	空圧機、送風機
消防法（危険物）	シンナーの保管
フロン排出抑制法	業務用空調機
家電リサイクル法	法に基づき事業者に引き渡す。
小型家電リサイクル法	

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありませんでした。

9. 代表者による全体の評価と見直し

エコアクション21の取組から二年が経過し、前期に比べて従業員の環境への活動意識が高まってきたと感じられる。

環境目標に対しては概ね達成することができた。項目別にみると；

- ・二酸化炭素の削減目標は、目標を上回ることができた。自動車燃料は作業現場数が増大している中で、目標を上回ることができたが前期よりも16%増加している。来期に効率の良い運行計画の提示ができるよう、作業現場の人員配置・配車の調整をしていく予定である。

さらに事務所照明のLED化は完了し、2階仮眠所の照明もLEDへ移行する計画を予定しているところである。

灯油は、取り組みを開始してから2年になるが、前年度との比較だと158%から94%に二酸化炭素を低減することができた。11月に積雪と使用が早まったが、暖かくなるのも早かったため使用期間が抑えられたと思われる。

- ・廃棄物に関しては、リサイクル化の促進として、機密書類等の溶解処理契約・紙類の再生業者との取引を開始した。またコピー機にて裏紙使用・使用済みコピー用紙をリサイクルしリサイクル名刺の発注と、各々で再利用を心掛けている。

産業廃棄物に関しては、工事の需要が上がり処分量が増加となる。引き続き各現場責任者には、各々の工事において資材のリサイクル化、環境配慮型の機械の選択などの提言を元請会社に対して積極的に行ってもらいたい。

- ・水の使用量の削減に関しては、4月に開始したグリーンカーテンの水やりで増加を予測していたが、前年度を上回ることができた。また、前年度に引き続き勤務体制の見直しにより、2階仮眠所の利用頻度が低減し、このことは従業員の健康面からも今後も促進してゆきたい。

- ・グリーン購入は目標値を上回る結果となった。月にばらつきはあるが、グリーン購入の意識が高まってきていると思われる。コピー用紙の再利用や裏紙の活用も徹底しているところである。

工事着工前に開催される元請業者との事前安全協議会において、これまでは安全・品質が重点課題であったが今年度(2017年4月)より環境面での対策もとわれることになった。とりわけ弊社との関りが大きいのは重機械の油漏れ対策と深夜に発生する騒音対策である。

建設機器の展示会などを活用しこれらのことにも目を向け、何より日々の細かな環境面での苦情までもが情報としてあげられるような風通しの良い組織づくりを目指したい。